

CHALLENGER!



能代山本地区 田中 真理子（たなか まりこ）さん

能代山本子育てサポートグループちゅちゅ代表

かつて「私なんて」と一歩を踏み出せなかった田中真理子さんが、2015年に立ち上げた子育てグループ「ちゅちゅ」。子ども用品りゅーす会や親子の居場所づくりを続け、地域の子育てを支えてきた。

「能代で子育てしてよかった」と思う人、そして将来「ここで子育てしたい」と願う子どもを増やしたい——そんな想いから始まった取り組みは、母親たちに安心をもたらし、地域に新たな交流の輪を生み出しているだけでなく、世代を超えて支え合う温かな空気も育てつつある。

「40代、中年女子になった今が一番楽しい」と語る真理子さんの歩みに触れる。

服の交換から心がつながる！

ちゅちゅが築いた地域子育てのあたたかな循環

ママ友の「ベビーマッサージをやりたい」という小さな声から始まった「ちゅちゅ」の活動は、やがて母親向けの講座やお茶会へと広がり、地域の子育てを支える存在へ成長していった。当初は「転勤族ではないから」と代表に立った真理子さんだったが、多くの母親たちから頼られ、応えていくうちに、その経験が少しずつ自信へと変わっていく。

活動の見直しを進めていた2022年、ちゅちゅの代名詞となる『りゅーす会』が誕生した。子ども服は着られる期間が短く入れ替え

も多い。「服をリユースすれば部屋も片付き、無理なく続けられるのでは？」という発想から、まずはスタッフ同士で服を持ち寄って試験的に始めたところ、ニーズの大きさが見えてきた。今では年間延べ200組以上が訪れるイベントとなり、服の交換だけでなく、母親たちが悩みや喜びを気軽に語り合える温かな居場所として定着している。「子育てを一人で抱え込まずにいい」という安心感がそこに生まれ、地域の新たなつながりを育んでいる。

中年女子♡頑張ります！
能代が好きと言えようように

人が入れ替わっても続く理由——縁でつながる“子育てコミュニティ”の底力

現在、活動を支えるスタッフは18名。半数以上が転勤族のため入れ替わりも少なくないが、不思議と一人が抜けると新しい誰かが自然に加わり、まるで“縁に導かれている”ようにつながりが続いてきたという。衣服の保管場所に困った際も、偶然のように提供してくれる人との出会いがあり、活動は途切れることなく継続してきた。

「服のリユースって循環ですよね。ちゅちゅも、循環によってつながるグループだと思っています」と真理子さんは語る。その時々スタッフの特性や得意分野を柔軟に取り入れながら、ちゅちゅは姿を変えつつ成長し、母親たちが安心して集える“心の拠り所”として根づいた。そこには笑顔が生まれ、子育てを一人で抱え込まずにいいという温かな空気が満ちている。



幼稚園や飲食店等に設置している自主制作のフリーペーパー。

活動詳細

毎月、子ども用品のりゅーす会や親子で安心して過ごせる交流の場を企画し、地域のつながりを育んでいる。さらに活動10周年を迎えた2025年には、能代山本地区の子育て世代を応援するため、役立つ情報をまとめたフリーペーパーを自主制作・発行し、子育てに関わる人々がより広く支え合える活動へと発展させている。

団体名 能代山本子育てサポートグループちゅちゅ 活動日 月1～2回
活動拠点 能代山本地区 連絡先 chuchunoshiro@yahoo.co.jp



instagram

田中さんが応援してほしいこと！！

ちゅちゅのことを多くの方に知ってほしい！

子育て中の方や妊娠中の方、ぜひお気軽に遊びに来てください。また私たちと一緒に活動を支えてくださる仲間も大歓迎です！



新生児～140cmの服を協力金100円で気軽に交換できる。

助け合いは自然に育つ！ 母たちの“やさしさスイッチ”が入る場所

活動を通して真理子さんの心に深く残っているのは、ある母親の「今度は私が誰かのために何かをしてあげる番」という言葉だ。子どもが小さい時期は時間にも気持ちにも余裕がなく、人を助けたくてもできないことが多い。だからこそ、まずは周囲を頼り、支えてもらえばいい。そして少しずつ心の余裕が戻ったとき、今度は自分が誰かに手を差し伸べる——その自然な循環こそが、ちゅちゅの活動の核となっているのだ。

服のリユースやお茶会、講座などを通じて母親同士がつながり、助け合いの輪が広がっていく場になったことに、真理子さんは「本当に嬉しい」と語る。やがて自分たちの子どもが子育て世代となる未来まで、この活動を続け、安心と笑顔を受け継いでいきたいと意気込んでいる。